

奥寺 康彦（おくでら・やすひこ）先生

株式会社横浜フリエススポーツクラブ
YOKOHAMA FC 代表取締役会長

出身：秋田県 生年月日：1952年3月12日
経歴：相模工科大学付属高（現・湘南工科大学付属高）→
古河電工→ブンデスリーガー・FCケルン→ヘルタ・ベルリン→
ヴェルダー・ブレーメン→古河電工（東日本 JR 古河サッカークラブ）

個人成績 ・日本リーグ通算得点 39点
・日本リーグ通算アシスト 20アシスト
・ブンデスリーガー通算出場試合 235試合
・ブンデスリーガー通算得点 25得点

資格：財団法人日本サッカー協会公認S級コーチライセンス

1970年代当時、世界最高峰のリーグと言われたドイツのブンデスリーガで9年間レギュラー出場し活躍した。ヨーロッパサッカー連盟主催の国際大会にはアジア人最高となる6回出場。1978-79シーズンのUEFAチャンピオンズカップ（現・UEFAチャンピオンズリーグ）ではアジア人として大会史上初となるゴールを記録した。帰国後は、日本国内初のスペシャライズドプレイヤーを結び注目を集めた。1987-88シーズンを最後に引退。

その後、Jリーグ参戦のためクラブ化された古巣の「東日本 JR 古河サッカークラブ」（旧古河電工）のゼネラルマネージャー、96年には監督に就任。現在は横浜FCの代表取締役会長兼ゼネラルマネージャー。テレビ、新聞、雑誌などでヨーロッパサッカーの解説なども行い、日本サッカーにとどまらずヨーロッパサッカーもサッカーファンに伝える活動をしている。

奥寺康彦公式サイト：http://www.diamondblog.jp/yasuhiko_okudera/



〈講義概要〉

株式会社横浜フリエススポーツクラブ代表取締役会長としてサッカー業界の発展に尽力する奥寺康彦氏が、サッカー業界の現状と課題について講義を行った。

講義ではまず、ドイツのブンデスリーガーにて9年間レギュラー出場し、帰国後日本人初のプロサッカー選手として活躍した経験から、サッカーの文化や歴史、ヨーロッパのサッカークラブチームの特徴や現状について分かりやすく説明。さらに、プロとしての努力や考え方についても言及した。また、ビジネスの視点から日本サッカーの現状と課題について解説し、経営の厳しいサッカー業界を発展させるためには、人材の育成やエンタテインメント化へ向けた環境整備、権利・契約・待遇等の改善が求められていることを示した。

さらに、「欠点を直すよりも先に良さを伸ばすことが大切」、「ツキや運は努力しているからこそ付いてくる」、「基礎をやり続けることが成功に繋がる」など数々の言葉に学生は感銘を受け、サッカー業界についてのみになく、大学生活や人生において大切な考え方も学んだ。

《受講生の感想》

●近年は女子サッカーが注目されるなど、サッカーに対する関心が高まっていると感じます。今後、野球と並んでさらに盛り上がっていくと思われるが、その一方で放映権などの権利問題といった複雑な状況もある。これらの問題を上手く対処して選手が更にプレーしやすい環境やファンが応援できる環境をつくっていく必要がある。そうすることでサッカーが幅広く親しまれていくのではないかなと思う。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●サッカーの歴史を多面的に見ることができました。欧州ではサッカーを単なるスポーツとしてではなく、教育や交流、コミュニケーションの場として捉えられていて、日本でもそういったスポーツコミュニケーションが取られるような環境が整えられれば良いと思った。

立命館大学・産業社会学部・1回生

●プロフェッショナルについてのお話は、サッカーだけでなく、これから社会に出る私たちにも共通する話だと感じました。トライしてみる姿勢や指示される前に自分で考えて動くということは、実際できない人が多い。今日聞いたお話をこれからの自分の行動に当てはめていこうと思いました。

立命館大学・映像学部・2回生

●奥寺先生のプロ意識の高さは凄いなと思ったし、「プロ」って何なのかを考えさせられました。そして、何事もやってみること、基本を大切に忠実にやることなどを学びました。これはサッカーだけでなく、全てのスポーツ、仕事に共通することだと思います。今日の話を自分の夢や将来に活かしていければいいなと思いました。

立命館大学・産業社会学部・3回生

●サッカーの枠だけに留まらない“プロの考え”がとても勉強になりました。プロフェッショナルのお話では、これからの自分の生き方を考えさせられました。目標があることは幸せなこと。失敗しても構わないから自分の思う通りにやれ、というのはとても励みになりました。今日学んだことを糧に、自分の信じた道を進んでいきたいです。

立命館大学・産業社会学部・2回生

●奥寺先生のお話しに、「常に真剣、常にフレッシュでいることが一番大切、マンネリ化することが一番怖い」とありました。「マンネリ化」することは自分の成長をストップさせてしまうものであり、新しい気持ちでいることが「次へのステップ、次への成長」に繋がるという言葉が感動しました。

立命館大学・法学部・3回生

